

昭和54年度地質調査所の出版物

- 1:2,000,000 地質編集図
  - No. 17—5 日本鉱床分布図(金・銀・アンチモン・砒素鉱床)
  - No. 17—6 " (硫黄・硫化鉄・石こう・重晶石鉱床)
- 1:500,000 地質図幅 鹿兒島(第2版)
- 1:200,000 地質図幅 札幌 久遠
- 1:50,000 地質図幅
  - 地域地質研究報告(5万分の1図幅)
    - 千歳(札幌—42) 御蔵島(八丈島—4)
    - 浅舞(秋田—39) 津島(京都—19)
    - 酒田(秋田—55) 江住(京都—106)
    - 坂城(東京—1) 伊予鹿島(高知—88)
    - 藤沢(東京—73) 宿毛(高知—89)
    - 三崎(東京—93)
- 海洋地質図
  - No. 13 日本海南部および対馬海峡周辺広域海底地質図(1:100万)
  - No. 14 北海道周辺日本海およびオホーツク海域広域海底地質図(1:100万)
- 日本水理地質図
  - No. 29 福島県福島盆地(1:5万)
- 構造図
  - No. 5 信越地域活構造図(1:20万)
- 日本炭田図説明書
  - No. 13 天北炭田地質説明書
- 空中磁気図(1:20万)
  - No. 24 北見地域
  - No. 25 大隅半島—屋久島海域 種子島東方海域
  - No. 26 佐渡相川—輪島海域 糸魚川—七尾海域
  - No. 27 伊豆沖海域 相模灘—伊豆諸島海域 房総沖海域
- 地質図目録図 1980年版
- 地質調査所報告
  - No. 260 鉱物資源予測手法の開発
- 物理探査調査・研究一覽 第XXII輯(昭和53年)
- 地質調査所年報 昭和53年度
- 日本の鮮新世後期から完新世の熱水変質帯・温泉沈殿物一覽(200万分の1地質編集図19 日本の熱水変質帯分布図Ⅰ 鮮新世後期—完新世 関連)
- 地質調査所月報 第30巻 第5号
  - 坂本 亨・宇野沢 昭:茨城県中部,友部丘陵の第四系
- I. TAKASHIMA: Preliminary Study on the Determination of Alteration Age by a Thermoluminescence Method
  - 磯部一洋:現成砂浜堆積物中にみられる変形ラミナについて
  - 岸本文男訳:ソ連の先カンブリア系中における変成源鉱床の進化の特徴
  - 講演要旨(第138回研究発表会 環境科学における地質学の果たす役割)
- 地質調査所月報 第30巻 第6号
  - F. UEMURA: Tertiary Volcanic Activity, Geotectonic History and their Characteristics in the Northern District of Aomori Prefecture
  - 橋本尚幸・磯山 功・窪木時雨郎・奥海 靖・大沢 穠:岩木火山の北半部の地形学的考察—とくに赤倉沢泥流堆積物の泥流丘について—
  - 資料室:新着資料の紹介
- 地質調査所月報 第30巻 第7号
  - 磯部一洋:静岡県下田市多々戸海岸における海浜縦断形状の変化過程に関する研究
  - 加藤碩一:1978年6月4日の島根県中部地震による墓石の被害について
  - 加藤 完:地質調査所松江地区水位観測井の島根県中部地震(1978)前後における地下水位について
- 地質調査所月報 第30巻 第8号
  - K. MOTOJIMA and T. HIRUKAWA: Geochemistry of Some Iodine-rich Rocks and Brines from the Mobara Gasfield, 50km Southeast of Tokyo
  - 小村良二:大阪府阪南町の瓦粘土の産状と性質
  - 中塚 正:コンピュータによる図形表示(II)—鳥瞰図—
  - 講演要旨(第139回研究発表会 支所・出張所関係講演, および古第三系における最近の問題点)
- 地質調査所月報 第30巻 第9号
  - 堀川義夫・津 宏治・小川克郎:茨城県日立—千葉県鴨川地域の空中磁気異常と地質構造 第I報 調査データ処理法および解析結果
  - S. ISHIHARA: Kappameter KT-3 and its Application for Some Volcanic Rocks in Japan
  - 岸本文男訳:アジャリア構造単元と東ポントス構造単元の関係および地質発達型式に関する問題よせて
- 地質調査所月報 第30巻 第10号
  - 横田節哉・大嶋和雄:石狩湾堆積物の重金属の分布
  - 小川克郎・堀川義夫・津 宏治:茨城県日立—千葉県鴨川地域の空中磁気異常と地質構造 第II報 磁気構造と地質構造
  - 資料室:新着資料の紹介
  - 講演要旨(第140回研究発表会 地質調査所におけるコン

ピュータの利用と現状)

・地質調査所月報 第30巻 第11号

藤井敬三・佐々木 実・後藤 進・曾我部正敏：太平洋炭碛における炭質の側方変化と炭層の層厚変化との関係について

寺島 滋：赤外吸収分析法による岩石、鉱石、堆積物中の全炭素、全硫黄、炭酸塩炭素、非炭酸塩炭素の定量

K. MOTOJIMA, E. TAJIMA and H. AKAIWA: Preliminary Report on the Geochemistry of Iodine, Bromine, and Chlorine in the Surface Samples of Cenozoic Marine Sediments from the Southern Part of Okinawa Main Island, Southwestern Japan

岸本文男訳：東南アジア陸部のメタロジェニー

・地質調査所月報 第30巻 第12号

J. YAJIMA: Neogene Mineralization of the Teine-Chitose District, West Hokkaido, Japan

柴田 賢・内海 茂・中川忠夫：K-Ar 年代測定結果-1

第30巻索引

・地質調査所月報 第31巻 第1号

牧 真一・永田松三・福田 理・古川俊太郎：宮崎県下の宮崎層群および四万十累層群の堆積岩の有機物について

加藤碩一：日本活断層図 (1:2,000,000, 1978) につ

いて、その1、地質及び地震断層  
岸本文男訳：沿海州の火成活動関係資料

・地質調査所月報 第31巻 第2号

清島信之：九州における四万十帯中の含銅硫化鉄鉱床特にその胚胎層準について

成田英吉・太田英順・大森江い・寺島 滋：奥尻島西部の深成作用と鉱化作用—北海道西部地域白亜紀—第三紀初期の鉱化作用—

橋本知昌・星野一男・加藤碩一：島根県東部—鳥取県西部地域の活断層

高島 清訳監修：辰砂の大型単結晶の熱水合成

・地質調査所月報 第31巻 第3号

渡辺史郎・服部 仁：南東九州の岩石の磁性・密度および磁気・重力異常について

川野辰男・橋本知昌・斎藤英二・磯已代次：山梨県六郷町の地すべり地における地表面変動の測定について

坂巻幸雄訳監修：低品位ウラン鉱石のバクテリアリーチング

・地質調査所月報 第31巻 第4号

加藤碩一：日本活断層図 (1:2,000,000, 1978) について、その2、活断層

寺島 滋：亜鉛—ジチオールを用いる吸光光度法による岩石中微量モリブデンの定量

岸本文男訳：中国の油田・ガス田の層序

[57頁からつづく]

もちろん 貸出のためには 職員または学生としての身分証明書が必要であり 訪問滞在者はホストの信任状をもらって 大学の中央図書館から証明書を発行してもらわなければならない。貸出期間は全て2週間で 途中でも 他に借りたい人が申し出ると 最初の帯出者に電話か手紙で知らせてくる。

最後に これまた有名な 付属の水族館・博物館 (Thomas Wayland Vaughan Aquarium—Museum) を紹介したい。最初に水族館として開設されたのは 1915年と古くその後 博物館・書店・塩水池などを加えて 今ではサン・ディエゴ近郊の見所のひとつとなっている。水族館の規模は とりたてて大きいとは思えないが サング礁近辺の海底やカリフォルニア湾岸の海底などの模型がつくられていて その群集が観察できるのは面白い。博物館には 世界の主要な潜水艇をスライドで見せるコーナーがあって何度か訪れたおぼえがある。入場料はとられないが 入口に寄付金箱が置いてある。2 3人で行くと その中に1ドル札をいれることにしていた。この施設は教育目的にも使われており 夏休みには子供

たちのサマースクールのプログラムのひとつを提供している。年間的一般入場者は40万人強で その他に 約6万人の学生 (小学生が主体か?) が団体で入場する。

5. おわりに

SIOのことは いくら書いても 書き終らないような気がする。わずかに15か月ではあるが その地に住んで多少言葉の不便を感じながらも 楽しい日々を過ごしたせいであろうか。前号の冒頭で述べたように サン・ディエゴ付近は常春の地である。2月でも 晴れた日ならば 屋外の温水プールで泳ぐことができる程であり 8月でもクーラーはおろか扇風機も要らない。SIOの研究 (そして そこで働く人の生活) 環境は そのように恵まれた気候 人々のおおらかさ そして 研究所としての機能の追求に支えられているといえよう。気候については どうしようもないが 他の点では もっと真似をしても良いことが多々あるように思う。研究組織の紹介が 若干冗長であったと反省する一方 上記の真似のできそうなことがらを読みとっていただければ 幸と思いつつ 筆をおく。